

目次 Contents

- 2 目次・すその人
- 3 特集 カーボンニュートラルシティを宣言
- 4 特集 これからのまちづくり
- 8 特集 令和3年度市の財政状況
- 10 人事行政運営公表
- 12 未利用の市有地を一般競争入札で売却
- 13 年末年始のごみ収集／公共施設の年末年始の休業日／まちを守る消防団員を募集
- 14 フォトグラフ
- 16 インフォメーション
- 21 図書館だより
- 22 救急協力医
- 24 裾野っ子／すこやかタウン

表紙 Front cover



芸術に触れる秋

11月3日(水)から14日(日)にかけて市民芸術祭が開催されました。初日となった3日は「芸術に触れる文化の日」として多くの体験ブースが設けられ、作品作りを楽しむ人たちがでぎわいました。

広報特派員：杉本 武満



伊藤園 お〜いお茶新俳句大賞 新俳句フォトの部 大賞を受賞 『けど明日は光の中の古写真』

西島 千尋さん (33歳・元町)

(株)伊藤園が募集した『第32回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞』の入賞作品が10月24日(日)に発表されました。西島さんは7つの部門のうち、自分が感じたこと、思ったことを俳句と画像で自由に表現する新俳句フォトの部に応募。応募総数3,487句の中から見事大賞に選ばれました。西島さんが応募を始めたのは5年ほど前。「祖母が趣味で俳句や短歌を詠んでいたのを近くで見っていたこともあり、子どものころから俳句に興味がありました。この新俳句大賞は季語の制約がないため、やってみようと思いました」と、応募したきっかけを語ります。

大賞を受賞した作品は「妹と海に出かけたときに写真を撮りました。そのときは日差しの強い夏の日で、妹がヒマワリを持っていた情景を覚えています。この写真を第三者や何十年後の自分が見たら単なる古い写真でしかないのだろうな、という思いを俳句で表現しました。過去に入賞したことはありますが、今回大賞に選んでいただいたのはありがたいことですし、写真を撮らせてもらった妹に感謝しています」と西島さん。写真も趣味で、地元のフォトコンテストなどにも応募しているそうです。

「写真も俳句ももっと勉強していきたい」と抱負を語る西島さん。おだやかな話し方が印象的でした。



susonobito No.33